

# 『星乃道神社』 浄財募集巡行

軽井沢熊野皇大神社は、軽井沢ミーティング実行委員会が、毎年、晴天と安全を祈願する神社です。

熊野皇大神社では、現在、ロードスターを祀る副社『星乃道神社』を建立中です。

マツダ × RCOJ(軽井沢ミーティング事務局) × 熊野皇大神社



## 『星乃道神社』 ご神体

RCOJ事務局=軽井沢ミーティング事務局では、

『星乃道神社』のご神体となるオブジェの寄贈をマツダに依頼しました。

マツダ社内の方々の関係者のご厚意でそれが実現しました。

2021年10月の軽井沢からスタートし、全国各地のミーティングを巡行し、

『星乃道神社』の建立費用に充当する浄財を募り、熊野皇大神社に納めます。

五千円以上をご寄付いただける方は芳名帳にお名前を記載ください。ご神体とともに副社に納めます。

2022年5月の軽井沢ミーティングは第30回。その記念に、ミーティング時に一度、ご神体を神社に納め、2022年秋のイベントシーズンには、再度お借りし、全国各地のミーティングを巡ります。

浄財箱の側面、背面にステッカーを集めていきます。

『ご神体』について マツダからの解説です。

私たちが社内で『ご神体』と呼んでいるこのオブジェは、「造形のマスターピースモデル」です。

マツダデザインにオンリーワンの特徴を与えているボディフォルム。

その造形意図や目指すものを、シンプルかつ直感的に（言葉で説明せずとも心が通じ合えるように）感じ取ってもらうために、デザイン開発中や開発後に創られるものです。

これは実車のフォルム造りを司るクレイモデラーの手によって創られます。

モデラーの感性と手の温もりがそのままカタチになっているため、

私たちはそれを「デザインの魂が宿るもの」として大切にしています。

2014年9月4日、NDロードスターを世界3拠点同時にお披露目した日、

日本では舞浜アンフィシアターで実車の横にそのマスターピースモデルが置かれていました。

これは、その1/12サイズの複製版です。

当時は「ソウルレッド」に塗られ、国内や海外で行った試乗会でジャーナリストやメディアに紹介しました。

その後、30周年記念モデルのボディカラー見本として「レーシングオレンジ」に塗り替え、同じくメディア取材会等に展示したその実物です。

NDのデザインモデルには、NAから続くこのクルマの魂が受け継がれています。

このクルマが存在することへの感謝とともに、交通安全と晴天を祈願しましょう。

Roadster Club of Japan (Karuizawa meeting office)